

(様式 2)

海外研修視察報告書

平成28年 9月 21日

長崎県議会議長 様

長崎県議会議員 橋村 松太郎

海外研修視察を実施しましたので、つぎのとおり報告いたします。

- 1 日程 : 平成28年 8月28日から 9月 3日まで (7日間)
- 2 訪問国 : アメリカ合衆国
- 3 調査目的 (申請時に記載された調査目的)
諫早湾干拓事業で創出された自然干陸地等地域資源の利活用を計ることによる地域活性化策の検討
- 4 調査事項 (申請時に記載された調査事項)
 - ・ サンフランシスコ湾における農業利用等も含めた湿地の利活用政策
 - ・ サンフランシスコ湾における干拓地と公有水面管理施策の関連性
- 5 調査結果 (別紙により作成)
- 6 調査により得られた成果及び県政への反映方策

事業目的、地域環境が異なるサンフランシスコ湾における湿地形成と、諫早湾干拓事業に沿って創設された自然干陸地等は、そもそものスタートが異なり、著しい違いがあることが理解できたが、サンフランシスコ湾で取り組んでいるような利活用策は、諫早湾干拓による自然干陸地等での利活用を検討する上でも有益なものであった。

諫早湾干拓事業の実施によって、自然環境の一部が消滅したことは否めない事実であるものの、より良いアレンジメントとなるような結果をもたらすことが事業実施者の責務であるため、地形的な違い等はあるにせよ、行政関係機関が一体となって、サンフランシスコ湾における利活用策の一部を取り入れ、自然干陸地等の自然回復を進めていきたい。

調査結果 (別紙) は以下の内容を調査箇所ごとに記載

- ・ 日時、応対者、調査事項、調査内容、調査の成果、所感

サンフランシスコ湾における湿地再生事業の先進地視察 報告

- ◆ 視察日時：平成28年（2016年）8月28日（日）～9月3日（土）
- ◆ 出張者：長崎県議会議員 橋村 松太郎
- ◆ 視察目的：諫早湾干拓事業で創出された調整池や自然干陸地等は、地方創生や地域活性化、環境保全の一助となる未利用資源であり、これらの資源の有効活用が求められている状況であるため、様々な利活用方策を実施し、観光資源としても効果を上げているサンフランシスコ湾における先進地視察を行うことで、諫早湾干拓事業で創出された自然干陸地等地域資源の利活用を図ることによる地域活性化策の検討を行う。
- ◆ 視察先：

8月	29日	午後	サンフランシスコ湾保全開発委員会
	30日	午前	ハミルトンフィールド現場
		午後	ソノマベイランズ湿地再生事業現場
	31日	午前	コヨーテヒルズ地域公園事務所
		午後	ハイワード海岸線説明センター
9月	1日	午後	サンメイド社（レーズン加工会社）
	2日	午前	在サンフランシスコ総領事館

※ 8月28日到着後に、シビックセンターにおける農家直売所を視察。

◆ 視察概要：

○サンフランシスコ湾保全開発委員会との意見交換

日時：平成28年8月29日（月）14:30～16:50

場所：BCDC 会議室

先方：サンフランシスコ湾保全開発委員会(BCDC:San Francisco Bay Conservation and Development Commission)

Lawrence J. Goldzband 事務局長、

Matthew Trujillo 沿岸計画分析家 他

先方説明概要：

➤ 地域概要

- ◇ サクラメントを含む11countyは世界のGDPの19番目に当たる規模を誇る。
- ◇ オークランドも全米で5番目の大きさ。
- ◇ カリフォルニアで使うガソリンの42%を製油。
- ◇ 1849年以前の人口は1000人程度だったが、ゴールドラッシュを境に何千人にも増加。

- ◇ 1850年から2000年までに、居住地造成等のためにサンフランシスコ湾の1/3が埋め立てによって失われ、さらに水質汚染も進んだ。

▶ 取組内容

- ◇ 改善するための障害となったのは、9郡41市150特定区域（公共機関）が湾に接していたことによる利害調整。そのため、大学教授夫人の三名（Kay Kerr, Esther Gulick, Mclaughlin）が保全活動を始めた。これが米国最初の環境保全活動。
- ◇ これによって、1961年「save the bay」計画、1965年「temporary」計画が策定され、1969年に「San Francisco Bay Plan」を州知事が承認し、活動が開始。BCDCは州機関として発足。
- ◇ 対象は湾岸と湾岸から30mまでの間で、デルタ地帯も含む。
- ◇ 27名の委員が、9郡4市から選ばれるとともに、州知事が一般市民を5名任命し、その中から、1名を委員長、1名を副委員長としている。
- ◇ BCDCの政策目標は「埋め立ては最小限」、「公共アクセスの可能性の最大化」の2点。
- ◇ 水上でできることしか認めておらず、通常の土地でできることは湾ではできない。ただし、埋め立ても正当性があれば認めている。例えば野球場を湾岸地域に整備する際、周辺の歩道整備を義務付けて許可した。それによって、野球場の全席から湾が見えるようになり、公共アクセスの可能性の最大化が図れることとなった。

▶ 今後の課題

- ◇ 2100年には1m75水位が上がる予測。そうなれば、オークランドでは、海水が1.6マイル水路や河川を遡上することになる。
- ◇ これによって、BCDCの役割が変わる。重要ワードは「and」。設立当時は開発を規制し、保護することだったが、今後は開発を進めることとなる。
- ◇ 洪水に強くする必要（adapting to rising Tides）。サンフランシスコ湾の中央島には堤防を築いて1万戸を保護した。
- ◇ 大きな課題は、どう計画を立てるか、他の自治体と一緒に進めることができるかどうか。

▶ その他

- ◇ BCDCは地域の対応プランを作成する。提案されたら、周辺への影響を評価する。また、対応にかかる時間を短くする。
- ◇ 埋め立ては土でもコンクリでも了承している。
- ◇ 重要な問題は、湾岸には重要インフラが多く存在していること。水面が1m上がれば、下水道40～60kmに影響を及ぼす。

- ◇ また一番難しいのは 50～100 年を考えた教育を行うこと。現在、湾岸地域には貧困層が多く住んでいる。

質疑応答：

Q. 利害関係の調整方法は？

A. 対立関係としては産業・居住と、湿地帯がその関係。しかしながら、住民は湿地帯再生のために固定資産税を払っている。また、行政としては、陸軍がオークランドやリッチモンドでの浚渫を行っている。

Q. 浚渫した土は埋め立てにしか使っていないのか？

A. 埋め立て以外は、費用面から太平洋に投棄している。

Q. 27 名は全員一致しているのか？

A. 毎回そうなるとは限らない。例えば、アラメダ市においてホテル建設計画が立ち上がり、市が許可したが、その後、BCDC が審査する前に、計画変更し、開発規模が変更されていた。そのため、アラメダ市民 40～50 名が反対を表明する事態に至った。そのため、つい一週間前だが、開発会社が BCDC14/27 名の賛成を得られないとして、申請を取り下げた事例があった。

珍しい事例であり、そのようなことがないように、BCDC として、事前に法的アドバイスは行っている。

Q. BCDC の法的裏付けは？また、開発を阻止するので訴訟等起こされなかったのか？

A. 州議会の法律、規則が制定されている。

例えば、野球場は当初計画では歩道は 2/3 のサイズだったが、最大限大きくなるように指示をして今のサイズになった。住民等は満足していると思う。

湾に面している地域はリスクを認識している。浸水していない、リスクの少ない地域は今後の教育が重要。

Q. 環境保全の取り組みはどのようなものがあるのか？

A. 湾南部の塩田を湿地に戻している。また、オークランドの水路工事で出た土を使って、ハミルトンフィールドを埋め戻し、湿地帯に戻した事例もある。

Q. 環境を積極的に保護した事例はあるか？

A. サンフランシスコ南東部のハンターズポイントは、掘ると船が遺跡として出てくるような場所だが、船着き場として修復した。

Q. 保護や活用以外の方法はあるのか？

A. 第 3 の方法として、使えるようにすることが重要。湾は海岸とは違い、保護し

かない。

BCDC が設立されたときに既設の施設は、そのままでも構わないとしていたが、それらの施設が 50～80 年経って、今後どうするかが課題。

Q. 住民理解促進の方法は？

A. BCDC には広報がないが、ピア 15 にある博物館や、KEDE というテレビ局とパートナーシップを結んでいる。

また、Bay trail といって、湾外周全体を歩けるように整備しており、これまで 330 マイルが完成した。



写真 1 : Bay trail の看板 (ソノマベイランズ)

Q. 湿地帯はそのまま保護していくのか？

A. 今後どうするかは決まっていないが、まずは湿地帯を再生する。自然と居住地を共存させる。

Q. 今後の方針は？

A. オークランド港の開発や、塩が入って使えなくなったサンレアトラの再開発。例えば、サンフランシスコ空港の駐車場拡張の話もあるが、近くのピアにアクセスし辛くならないように、考える必要がある。

また、最終的な段階で何も起こらないように、Engineer Board と Designing Board の優れた専門家をボランティアで構成してチェックしている。

2012 年のハリケーンサンディが上陸し、その被害からの復興の際、ニューヨーク州で、デザインによる再構築をやり、うまくいっているのので、こちらでは、デザインのしなやかさ（レジリエンス）という設計コンクールを取り入れる予定。

うまく行く魔法の方程式はない。話し合いを続けることが重要。

○ハミルトンフィールド現地視察

日時：平成 28 年 8 月 30 日（火） 10:00～12:20

場所：ハミルトンフィールド

先方：カルフォルニア州沿岸管理局 Tom Grandesbery プロジェクトマネージャー

先方説明概要：

- ▶ ハミルトンフィールドは 3 年前にスタート。ソノマベイランズは 20 年前に完成。シアーズポイントは 1 年前に完成。
- ▶ オークランドから 400 万 m³の土を油圧で入れた。
- ▶ 米国基地だったが、ベトナム戦争でその役割を終えたことから、湿地帯再生を実施。そもそも本地域は、湿地帯だったが、1880 年に湾沿いに堤防を築いて農地として利用を始めた地域。その後、一部が空軍基地として利用され始めた。
- ▶ 連邦政府との共同プロジェクトであり、陸軍土木隊が土砂運搬、水路整備等を行った。また、スポンサーは土地を提供。必要の経費は、50～75%は国の補助。
- ▶ 湿地帯再生に当たっては、湾沿岸で残っていた湿地帯が 1 箇所あったことから、そこを参考とした。
- ▶ 学校の生徒やボランティアが植え付け等を手伝っている。
- ▶ 湿地帯の中には自然保護区のように立ち入りを制限しているが、堤防脇に散策道は整備して開放している。
- ▶ 再生に係る投入する土量はプランに沿って入れており、プランはコミッティーによって決定した。
- ▶ 2002 年に空軍が払い下げを行い、湿地帯再生を 400ha 実施した。400ha の湿地帯再生には約 1 億ドル掛かった。かかった費用のうち、主は土の搬入であり、1:9 の割合で土よりも水が入ったことが要因。
- ▶ 払い下げを行った農地は残り 1000ha あり、農地利用しているが、馬用の牧草しかできず、状態も良くないため、湿地帯再生を行いたいと考えている。農地は州が所有している。課題は面積が倍になることに伴う予算。浚渫土は 100 万 m³しかないが、持ち込み費用が高い。もし、農地が優良であったなら、そのような話は出てないだろう。
- ▶ スマートフォンを活用し、GIS で位置を把握し、説明が聞けるようなアプリを開発し、提供している。
- ▶ 堤防を切っただけに海水を導入しているが、湾の環境が変わったという話はなく、計測することも不可能である。



【Christima McWhorter 育苗マネージャー(植物生物学者として陸軍土木隊と契約)による説明】

- 湿地帯に植える植物を育て、実験データを纏めている。
- 10種類の植物を、毎年12,000株植えており、合計60,000株植える予定。
- 植える植物は自生していたものと、耐塩性のもの。周辺5~10マイルから種を採取している。
- 調査方法は杭を打ち、その2インチ内に植えているため、その範囲内に他の種が入ってきた時は取り除くが、ピククルウィードは残している。
- 種の選定をして、鉢で生育させてから、植えている。鉢で育てる際には、塩分、水量等をコントロールして自生するか確認している。
- 自生するかどうかの基準として、池の底には0%、池の周りには10%、さらにその周りに70%、その他には100%自生するものを選定する。



写真3：鉢での生育状況



写真4：現地の試験状況（杭）

○ソノマベイランズ湿地再生事業現地視察

日時：平成 28 年 8 月 30 日（火） 14:10～15:00

場所：ソノマベイランズプロジェクトエリア

先方：カルフォルニア州沿岸管理局 Tom Grandesbery プロジェクトマネージャー

先方説明概要：

- ▶ 1989 年～93 年にオークランドから土を持ってきた。
- ▶ 周辺一体の土地はソノマランズトラストが開発権を買い上げている。つまり、農地は農家所有だが、農家が農業を辞める場合、権利が委譲される。インディアンに由来するカジノの建設計画があったが、それは近くの街で建設するように計画変更させた。
- ▶ 堰を切った際、切った長さ・深さも大きくなかったが、モニタリングすると、年々大きくなっている。しかしながら、湿地帯に入れた土砂が流出しているということはない。それは堰を切る 1 年前から土を入れ始めたことで、ある程度圧密が進んだためと考えられるし、そもそも引き潮は満ち潮よりも力は弱いことも理由と考えられる。



- ▶ 水深は 4～5 フィートよりも深い程度。
- ▶ ソノマベイランズはゴールに達成している。さらに 5 年前まで茶色い草しか生えていなかったが、緑色の草も生えるようになった。
- ▶ ソノマベイランズのすぐ隣で実施したシアーズポイントは、実験的に湿地帯内部にマウンドを設置し、土の浸食を防いでいる。成果はこれから出てくるだろう。



写真5：ソノマベイランズ全景



写真6：ソノマベイランズの淵での植栽状況



写真7：シアーズポイント全景



写真8：シアーズポイントの説明看板

○コヨーテヒルズ地域公園視察

日時：平成28年8月31日（水）10:00～13:20

場所：コヨーテヒルズ地域公園

先方：湾東部地域公園管区（East Bay Regional Park District）

Robert E. Doyle ジェネラルマネージャー、

Matthew McDonnell 公園スーパーバイザー、

Jeffery Manley 湖統合マネージャー 他

先方説明概要：

- ▶ 東湾岸地域公園は、2つの郡にまたがる65の公園を管理しており、計1,200エーカーの面積を誇る。うち2つの公園は訪れるためにはガイドが必要だが、残りの公園は自由に訪れることができる。多様な自然保全と環境教育を主目的としている。

- ▶ ビジターセンターには、観察に訪れた人が見た鳥を書き込めるボードを設置したり、周辺の公園の感想を書くボードを設置したりして、参加しやすい仕組みづくりに励んでいる。



コヨーテヒルズ地域公園の
航空写真（黄色枠内）



写真9：観察に訪れた人が見た鳥を書き込めるボード

- ▶ 本地域には、1700年代にインディアンが居住していたことから、施設内にはインディアンの歴史も展示している。こうした展示をすることで、環境教育のみならず歴史教育の観点からも、人を集めることができおり、公園周辺50マイルの学校から年間2万人が教育プログラムで来訪している。また、多様な展示がある方が親子でも訪れやすい場になっている。
- ▶ 各ボードウォークは周遊できるようになっており、それぞれ一周約1マイル程度と散歩しやすい距離になっている。公園内には合計30マイルのボードウォークがある。管理としては、監視員が毎日見回りをしており、ボードウォークそのものは20～30年程度保つ（注；浸水することもなく、また湿度も低いため、耐用年数は日本と同様に論じられない。）



写真10：ボードウォーク

- ▶ 湿地へは山からの水しか流入しておらず、海水は入っていない。湿地帯再生のために水路を整備し、47 エーカーを湿地化させることで、湿地帯に集水し、背後地の防災を図っている。その他の土地は、例えば、100 エーカーの農場を整備し、ハロウィン用のカボチャを生産するなどしている（農業用水は地下水を利用）。湿地帯の標高は海面より高く、堤防も整備している。
- ▶ 公園より湾側には塩田があるが、民間企業によって製塩されており、塩田そのものも民間企業の所有になっている。塩田の堤防は歩けるよう、民間企業と協定を締結し、公園利用者が利用できるようにしている。



写真 11 : 公園遠景



写真 12 : 塩田遠景

- ▶ 公園東側の区域は 1990 年代まで採石場として、1500 万トンの石が利用されていたが、廃業することとなった。カリフォルニア州法では、採石会社が廃業する際に跡地利用の提案を行う義務があり、公園として利用されることとなった。採石のため地下 300 フィート掘っていたことから、そこを埋め戻し、牧草地とすることで、残土処理費用が公園に入ることとなり、公園としては諸々合わせて 12 千万ドル分と同等の寄付を受けたと考えている（坑内は 600 万 yard³で、ベイエリアで出た残土について、トラック 1 台あたり 400 ドルで受け入れ、汚染物が含まれていないかテスト等を行い、公園には 15 ドルが収入となる。）。
- ▶ その隣にはキャンプ場とその周辺施設（トイレ、シャワー、野外劇場等）を整備し、集客と収入源確保を図る計画。
- ▶ 当初、開発会社が市に提案していたのは、坑を湖にする計画としていたが、公園サイドから意見を出して今の形になった。しかしながら、交渉に 10 年かかり、計画完了まで後 10 年かかる予定。



写真 13 : 採石場跡

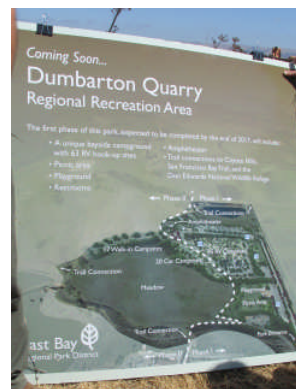
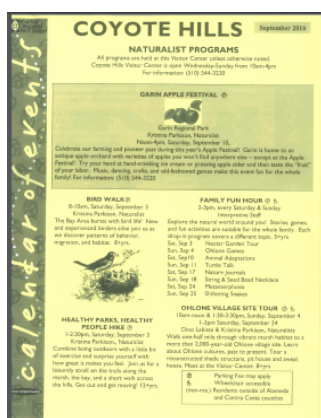


写真 14 : キャンプ場等計画

- ▶ 予算は年間 2 億ドルで、そのうち管理費は年間 1 億ドル。残り 1 億ドルはプロジェクトに対して支払われている。予算としては、住民の固定資産税として、一世帯あたり年間 12 ドルを徴収し財源としている。
- ▶ 年に一度アンケートを取り、どのような取り組みが良かったか集計している。健康志向であることから、人気のある取り組みは体を動かすものが多い。また、利用者を増やすためには、子ども向けプログラムを増やし、子どもが親を連れてくる形の方が成功している。



コヨーテヒルズ地域公園が毎月発行しているイベントを記したパンフレット

○ Hayward 海岸線説明センター視察

日時：平成 28 年 8 月 31 日（水）14:00～15:50

場所：コヨーテヒルズ地域公園

先方：Hayward 地域再生及び公園管理局（Hayward Area Recreation and Park District）

Paul McCreary ジェネラルマネージャー、
 Carol A. Pereira 理事会メンバー、
 Paul W. Hodges, Jr. 理事会メンバー、
 Minane Jameson 理事会メンバー、

Adrienne De Ponte プログラムコーディネーター 他

先方説明概要：

- ▶ コヨーテヒル地域公園との大きな違いは、塩水の湿地帯であること。
- ▶ 管理主体は、政府機関になるが、州・郡・市とも異なり、2市にまたがるエリア（100mile²）の湿地帯を所管する機関になる。5名の委員が住民投票によって選ばれる。主なサービスは自然保護の他、レクリエーション、文化、芸術、ゴルフ等になり、120名の職員、400名のパートタイム及びボランティアで構成されている。
- ▶ 地域の小学校では、3年生の時に湿地帯を、4年生の時に地域の歴史を学ぶことが必須となっていることもあり、1986年に設立した当時から小学校の先生が学習の場として利用している。
- ▶ 予算は、エリア内の各家庭から固定資産税として年間18ドルを徴収し、21百万ドルが入るとともに、9百万ドルがサービスの提供（ゴルフ、水泳、場所貸し等）で得る収入。サービスの提供のうち、主な収入源は、ゴルフなどの成人用スポーツ。
- ▶ ゴルフ場は、18コースと9コースの2つ及び練習場も所有しており、1ラウンド50ドルで、年間6万ラウンド利用されている。ゴルフ場は、自然も残っているため、生物に与える影響は小さいと考えている。また、生物に何かあった場合に備え、動物病院を整備している。
- ▶ サンフランシスコ湾の水位上昇の問題に伴い、大潮が来ると湛水する地域であることから、湿地帯再生に取りくんだ経緯がある。



写真 15：ヘイワード海岸線説明センター外観



写真 16：意見交換の様子

○サンメイド社（レーズン加工会社）視察

日時：平成28年9月1日（木）12:30～16:20

場所：Sun Maid 社内会議室、工場、契約農地

先方：サンメイド・グローブズ オブ カルフォルニア (Sun Maid Growers of California)

内藤 智規 営業部門副社長、

Clint Goto 営業ディレクター

先方説明概要：

▶ 会社案内

- ◇ 1912 年代に協同組合として創設、現在も約 750 の農家が加入しており、加入農家の所有農地の合計は約 40,000 エーカー (約 16,200 ヘクタール) になる。世界で7箇所程度しかレーズン栽培の適地はなく、その面積は約 15 万エーカーなので、おおよそ 1 / 3 のシェアを有している (世界最大規模)。
- ◇ サンメイド・グローブズ オブ カルフォルニアでは、契約農家から持ち込まれたレーズンの異物除去、洗浄、パッキングが主な役割で、40 万 m² の工場を有している。レーズンのみならず、アプリコット、桃、イチヂク等のドライフルーツも取り扱っている。



写真 17：関連商品等

▶ レーズンの生産過程

- ◇ 1 kg のレーズンを作るのに 4.5kg のブドウが必要。糖度 21~22 度のブドウを 2~3 週間干すことで、水分量を 10~12% まで乾かし、レーズンの糖度は 70% 近くまで上がることとなる。
- ◇ レーズンとなるブドウの品種は、95% がトンプソン種無しブドウ。接ぎ木で対応しており、寿命は 80~90 年程度。農業用水は主に地下水を利用。
- ◇ 乾燥方法としては、手摘み、機械収穫、DOV (Dried on the Vine) の 3 つがあり、それぞれの生産量は手摘み 40~50%、機械収穫 30~35%、DOV 20~25% となっている。手摘みの場合、20 エーカー (100 列程度) で、15~20 人が 2 日で収穫することになる。作業員は主にメキシコ人になる。機械収穫は、果実に水がいかないように途中の幹を切って、枝上で乾かすこととなる。それを機械

で収穫して、粒を地面に並べるまでが機械で可能となるため、10人かかっていた作業が2～3名でできるようになった。DOVでは木の栽培方法から3～4倍の収穫量が可能となり、更にフレーバー、味、食感が手摘みや機械収穫とは異なるものになる。

- ◇ レーズン用の収穫面積は2000年から2016年までに6割程度減ったが、レーズン生産量は維持している。農家が販売価格や生産コストの関係からアーモンドやピスタチオに生産をシフトしている。農家は4.2～15トン/haの収穫量で、1600ドル/トンの収入が入る(6,720～24,000ドル/haの収入)。
- ◇ 食の安全に積極的に取り組むとともに、販売できないレーズンはアルコール用やジュース用に利用するとともに、家畜用飼料にもしている。
- ◇ カルフォルニアレーズンの消費量は、米国が一位で、次いで日本になると思う。日本では主に製パンで利用されている。
- ◇ TPPの影響は、日本のレーズンに係る関税は高くないので影響は小さいが、台湾等は関税が3割程度あったので、輸出が進むと思われる。



写真 18：機械収穫のほ場



写真 19：手摘みのほ場

○在サンフランシスコ日本国領事館表敬

日時：平成28年9月2日（金）9:50～10:20

場所：在サンフランシスコ日本国領事館内会議室

先方：在サンフランシスコ日本国領事館 主席領事 永吉昭一

先方説明概要：

- ▶ カルフォルニア州の在留邦人は、サンフランシスコ（北カルフォルニア）に4万人、ロサンジェルス（南カルフォルニア）に9万人の計13万人がいる。

- ▶ そもそもサンフランシスコは、明治維新の前 1860 年、勝海舟や福沢諭吉等が乗船する咸臨丸等が派遣されたこともあり、世界で最初に設けられた日本大使館である。現在では、北米に 14 箇所の日米大使館、領事館がある。
- ▶ シリコンバレーや農産物輸出なども好調であり、カルフォルニア州は、世界の GDP で昨年度、フランスを抜き、世界第 6 位の規模となった。そのため、昨年には、現役首相として 26 年ぶりに安倍首相がサンフランシスコに来られた。ただし、農業分野では、メキシコ移民が支えているといっても過言ではない状況になっている。

●シビックセンターにおける農家直売所視察

日時：平成 28 年 8 月 28 日（日）15:00～16:00

場所：シビックセンター内広場

視察感想：

- ▶ 1981 年から実施しており、車で 1～4 時間の範囲の農家が出店（事務局らしきところからの聞き取り。）。
- ▶ 有機栽培を売りにしている農家が多く、健康志向の高さが垣間見えた。
- ▶ 売値は、一般的なスーパー等での販売価格よりかは安いですが、各店舗間ではほぼ同等の価格となっており、調整は図られているようであった。
- ▶ 売り方は、1 個売り、重さ売り及び袋売りバラバラで、様々な野菜を合わせて袋に詰めても問題ない店舗など、サービスでの差別化を図っているように感じられた。
- ▶ 野菜のみならず、ナッツ、花、魚等の出店もあった。



写真 20：農家直売所全景



写真 21：有機栽培を扱った農家

◆ その他：

- ・スマートフォンとの連携が進んでいる状況。サンフランシスコ市民は、Uber（自家用車による配車サービス）等で、スマートフォンを利用したサービスが当たり前の状況となっており、スマートフォンを活用したサービス提供が大きく展開されている模様（路上駐車用の駐車場確保サービス、現金が必要となった際の金銭貸し借りサービス等）。スマートフォンを活用したサービスは、今後、日本の行政機関でも力を入れるべき分野になる可能性。

◆ 考察：

- ・ 今回の先進地視察の印象として、サンフランシスコ湾における湿地形成と、低平地において、防災機能の強化及び優良農地の造成を目的として行われた諫早湾干拓事業によって創設された自然干陸地等は、その地形的事情、歴史的背景、事業目的等のそもそものスタートが異なり、著しい違いがあることが理解できた。
- ・ しかしながら、サンフランシスコ湾で取り組んでいるような利活用策は、諫早湾干拓による自然干陸地等での利活用を検討する上でも有益なものであった。また、湿地帯保全に係る活動経費を、税金により徴収し財源確保していることが印象深かった。
- ・ 諫早湾干拓事業の実施によって、実施区域に、より良いアレンジメントが加わるような結果をもたらすことが事業実施者の責務であるため、自然干陸地等の自然回復を進めることを目的に、国を含む行政関係機関が一体となって、サンフランシスコ湾における利活用策の一部を取り入れ、地域資源の利活用を計ることによる地域活性化を図ってきたい。

◆ 謝辞：

- ・ 今回の視察にあたって、視察先の皆様方には懇切丁寧な対応をいただくとともに、できる限りの調査を行いたいという当方の気持ちから、予定していた時間を超過し、ご迷惑をおかけすることもあったが、惜しみないご協力をいただいたことに深謝を表す。
- ・ また、今回の視察先の調整はすべて、外務省を通じて、在サンフランシスコ日本国総領事館の比護副領事及び望月副領事の協力を得て行った。ここに改めて謝意を表したい。